

## 4. まちづくりの重点プロジェクト

まちづくりの目標と方針に基づき、グリーン・ベイスト、コミュニティ・ベイスト、セイフティ・ベイストの考え方の反映を図りながら、以下4つの魅力化プロジェクトを重点プロジェクトとして位置づけ、まちなかを中心に、関連する事業や取組を進めることにより、魅力あるまちづくりの牽引していく。



4つのプロジェクトを通じて、まちなかの魅力化を図り、郊外を含む多彩な居住環境とも有機的につながることにより、御代田町に暮らすことの「確固たる付加価値」を創出していく

## プロジェクト① 道路・交通の魅力化プロジェクト

まちなかとその周辺部を結ぶ幹線道路や交通機能の強化を図りながら、まちなかの道路は歩行者を重視し、安全・安心で快適な、歩いて楽しめるみちづくりを進めていく。

とくにまちなかにアクセスのしにくい状況にあるまちなかと西軽井沢エリアとの間には新たな幹線道路を整備することによって、まちなかへの日常的なアクセスの円滑化を図るとともに、災害時には相互に安全に移動できる緊急避難動線を確保する。また、まちなかの道路は、車の主動線となる骨格（環状路線となるリング）を明確したうえで、枝線も含め、通学路や買い物など日常生活の徒歩動線として有効に機能する道路整備を促すとともに、沿道店舗の充実などと一体的に歩いて楽しめるみちづくりを推進していく。さらに、まちなかの縁辺部には自動車から徒歩への転換を促す駐車場を整備し、グリーンインフラの導入も図りながら、ゼロカーボンに寄与する持続可能なまちづくりも推進していく。

### ① まちなかへの円滑なアクセス

- 西軽井沢方面と円滑にアクセスできる道路整備
- 駅周辺の駐車場整備
- まちなかと郊外を結ぶ利便性の高い公共交通のしくみの構築



### <コンセプト>

**いざというときに逃げ道となり  
安全・安心で快適な  
歩いて楽しいみちづくり**

- 町内のどの方面からもまちなかへの円滑なアクセスができるようにし、災害時における安全な逃げ道も確保する。
- 道路空間の有効活用を図り、通行だけでなく、多様な人々が行き交い、にぎわいやくつろぎを感じられるみちをつくる。

### ② 旧街道の風情を感じさせるみちづくり

- 旧街道沿いの空き家の有効活用（リノベーション）
- 中山道や北国街道の歴史を感じながら安全に歩ける道路整備



### ③ にぎわいの場としての道路空間の活用

- 休憩スポットの整備
- くつろぐことのできるみちづくり
- 駅周辺空き店舗のリノベーションの誘導、新規事業者の進出支援



### ④ グリーンインフラの導入

- 駐車場のグリーンインフラ化（緑化駐車場）
- 透水性舗装化や沿道への雨庭の導入
- 街路樹の適切な維持管理



## プロジェクト② 駅及び駅周辺の魅力化プロジェクト

鉄道で広域ともつながる御代田駅をまちの核として、若い人をはじめ、多様な世代の住民や来訪者が集い、交流やコミュニケーションが生まれるウォーカブルで居心地のよい場所を生み出していく。

第1段階として、既存の駅をリニューアルして若い人が集える場や駅に車でアクセスする人のために必要な駐車場を確保する。第2段階として、駅南北の自由通路など駅前ロータリーを含む駅舎を再整備し、多様なアクティビティの集積を図る。第3段階として、駅周辺の店舗や敷地の事業者と連携して、にぎわいの生まれる交流空間や、緑を取り入れた快適に移動できるウォーカブルな動線整備を進め、駅周辺部を「公園」に見立てたまちづくりを段階的に進めていく。

### ① 若い人の居場所になる 駅

- 中高生が勉強、会話、待ち合わせをする場としての駅施設の整備
- 気軽な飲食の提供



### <コンセプト>

**公園に見立てた  
駅とまちなか  
～グリーンパークステーション～**

- 町のシンボル（顔）なる駅とまちなかを公園に見立て、御代田らしさを最も象徴する場所にする。
- 駅を日常利用する若者（学生）にとって居心地の良い場とし、それを引き金に様々な交流やアクティビティを生む場所とする。

### ② 多様なアクティビティ の集積

- 駅広、駅裏空間の公園化
- スポーツ・フィットネス、レクリエーションの場としてのパーク整備



### ③ 交流の場としての 機能強化

- 交流の場としてのカフェの整備、誘導
- 創造の拠点としてのワークスペース、ギャラリーなどの機能誘致
- 駅周辺空き店舗のリノベーションの誘導、ベンチャーへの支援

### ④ 次世代モビリティの導入

- コミュニティサイクル、レンタルE-バイクなど、小型モビリティの実験導入



## プロジェクト③ 公園の魅力化プロジェクト

充実した規模・機能でまちなかやまちなかに近い場所に整備されている公園を最大限に活かして、地域住民の積極的な関わりや、Park-PFI など民間事業者のノウハウの活用や参入を促しながら、パークマネジメントを通じて、公園に長く滞在できる施設や多様なアクティビティができる設備の導入を図り、地域住民の公園の活用頻度を高め、高度化し、グリーンインフラの核である公園の魅力化を図る。

### ① 滞在時間を長くする 機能導入

- パーク内への飲食等のサービス施設の導入
- レストスペース（ベンチ、東屋など）の導入



### <コンセプト>

#### 多様な人を呼び込む 多機能型パークへの転換

- 町内にあるシンボル公園をさらに有効活用し、町民にとっての最大の魅力資源とする。
- 日常的なアクティビティを多様化するとともに、1回の滞在時間を長くし、年間を通じたイベントの頻度を高めることで、町民の平均公園利用時間・日数を大幅に増やす。

### ② 公園アクティビティの 多様化

- ラン&サイクリングコースの設置
- 大人向け運動器具の導入



### ③ 活用頻度の高度化

- 四季それぞれのイベントの実施
- アート、音楽など文化芸術の場としての活用



### ④ パークマネジメント

- 民間を活用したパークマネジメントへの切り替え
- 収益事業の推進と維持管理コストの低減
- パークマネジメントを通じた町民の巻き込み





## プロジェクト④ 住宅地の魅力化プロジェクト

今後も増加が見込まれる人口や住宅をよりよく受け入れ、魅力的な居住地としてより積極的に選ばれる町にしていくために、地域材を活用した質の高い住宅や、交流を促す施設や場、浅間山や八ヶ岳方面を望む眺望の確保、美しい街並み景観など、御代田町らしい住宅地のモデルを、事業者と連携して創出していく。

### ① 質の高い住宅の供給

- 寒冷地に対応する質の高い住宅商品
- 御代田でライフスタイルを提案する設計、家具、設備提案



### <コンセプト>

#### 住民の交流と アクティビティを 活性化させる住環境整備

- まちなかに新たに整備する住宅地は今後の住宅整備のモデルとする。
- 住まい、交流、景観、眺望の4つの観点で優れた性能と環境を提供する。
- 住民の主体的な活動やマネジメントを促し、よいコミュニティを形成。

### ② 交流を促す施設と場

- 時間を過ごしたくなる広場
- 住民同士が対話できるカフェ・レストラン
- 会合、イベントのできるコミュニティ施設
- 菜園などの趣味の屋外空間



### ③ 美しい街並み景観の形成

- 街並み景観を誘導するガイドラインと協定
- 美しい外構を形成するためのイメージ提供、講習
- 浅間石など地元素材の活用



### ④ 浅間山等の眺望の確保

- 地域のアイデンティティとなる浅間山や八ヶ岳連峰の眺望軸の確保
- 眺望点、見晴らしスポットなど





# 究極的に住みやすい・居住者に選ばれるまち

郊外とまちなかの安全・安心で円滑なアクセス性の確保を図り、  
それぞれの地域の自然環境や歴史・文化、風土を活かした多彩な住環境を活かしながら  
4つの重点プロジェクトを通じて、まちなかの魅力化を図り、

まちなかを公園のようにみんなが集う居心地のよい場に変え、究極的に住みやすいまちのコアにしていく



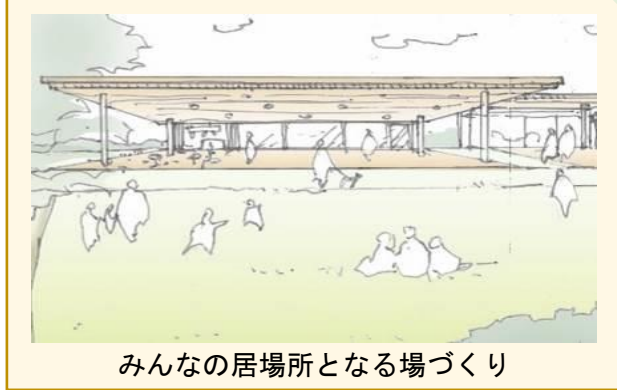
農村集落

安全・安心で  
円滑なアクセス性の確保



森林別荘地

安全・安心で  
円滑なアクセス性の確保



みんなの居場所となる場づくり



地域の気候・風土と調和した住宅地整備



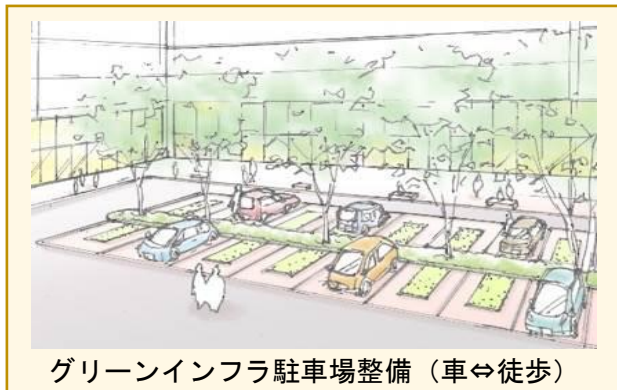
街道沿いの集落

安全・安心で  
円滑なアクセス性の確保

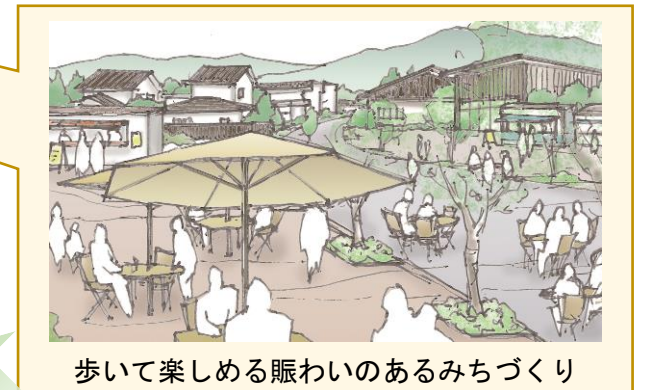


森林住宅地

安全・安心で  
円滑なアクセス性の確保



グリーンインフラ駐車場整備 (車⇄徒歩)



歩いて楽しめる賑わいのあるみちづくり

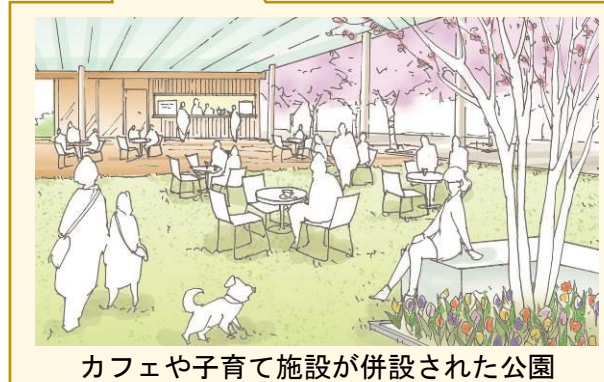


旧街道沿いの集落

安全・安心で  
円滑なアクセス性の確保



コミュニティガーデン



カフェや子育て施設が併設された公園

安全・安心で  
円滑なアクセス性の確保



農村集落

図 重点プロジェクトによって生み出す魅力あるまちなか空間と郊外の居住地がつながるイメージ



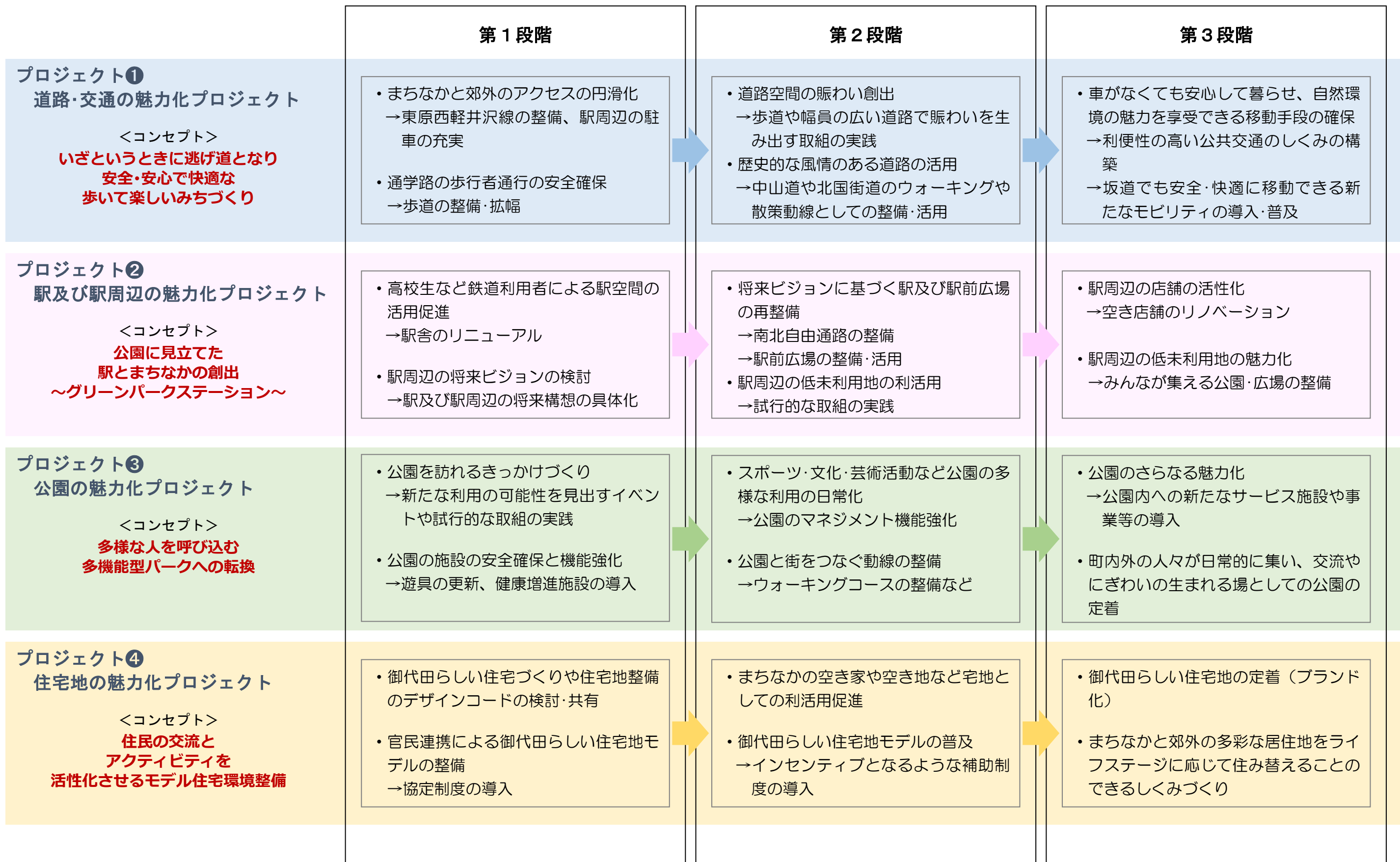


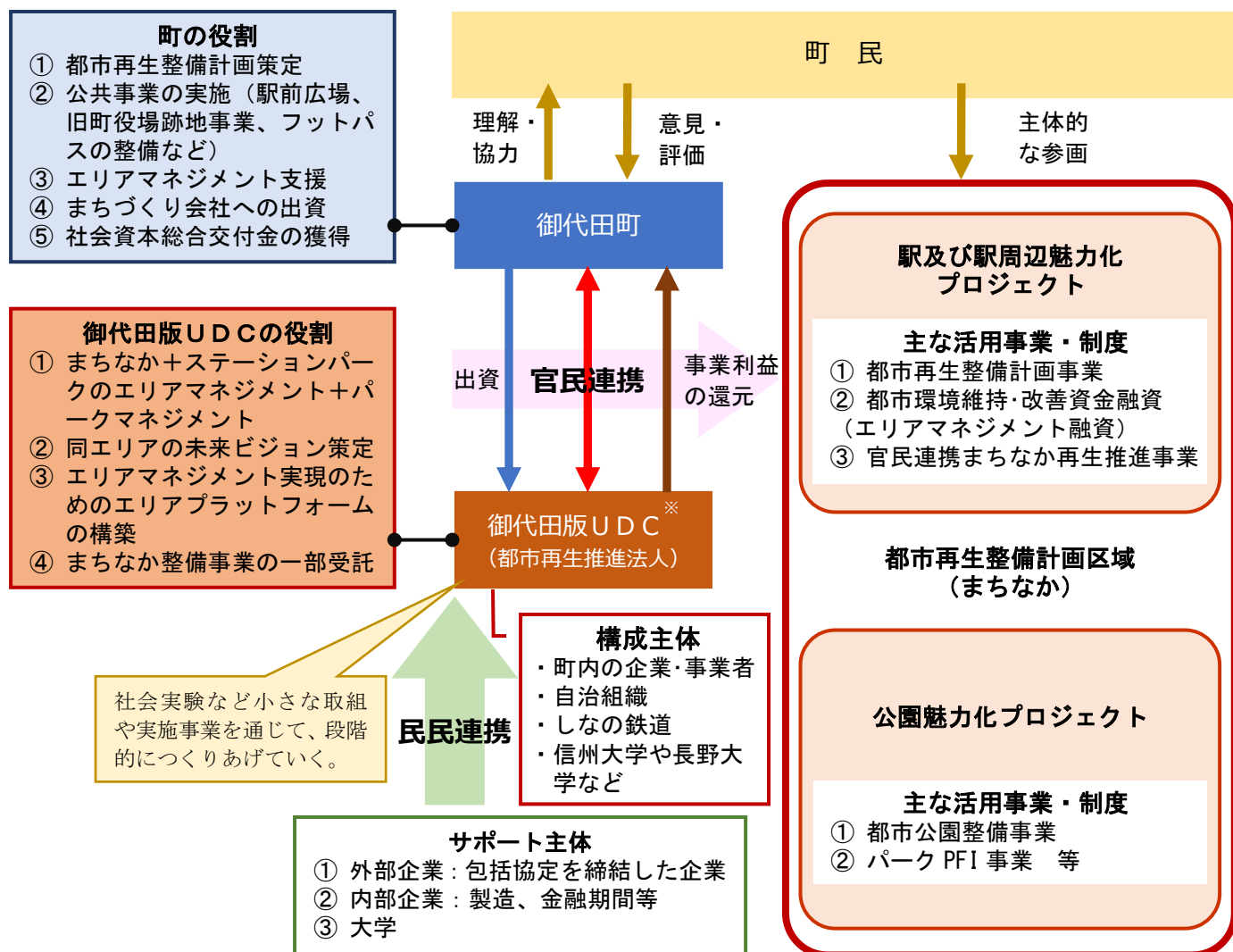
図 まちなかにおける重点プロジェクトの取組のロードマップ





## (2) まちづくりの体制

今後のまちづくりでは、多様な主体との連携が重要になる。重点プロジェクトの推進にあたっては、町民の理解や協力を得ながら、まずは町民の主体的な参画を図り、核となる人材を見出すとともに、都市再生特別措置法など魅力的なまちづくりを推進する各種計画・制度を効果的に活用して、関係する事業者や大学など多様な組織・団体と連携して取り組める体制の構築や役割分担が求められる。



UDCとはアーバンデザインセンター（Urban Design Center）の略称で、地域課題の解決に向け、まちに関わるさまざまな団体が連携して、統合的なまちづくりを行う推進体のことを言います。長野県には公・民・学が連携するプラットフォームとして信州地域デザインセンター（UDC 信州）がありますが、御代田版UDCはより地域に密着した公・民・学の連携組織をイメージしています。御代田版UDCが都市再生推進法人になることで、都市再生関連の資金を活用することも可能になります。

図 重点プロジェクトに対して多様な主体が連携して取り組む体制構築や役割分担のイメージ

---

御代田町まちづくり基本計画

令和5年3月

御代田町 企画財政課

〒389-0292

長野県北佐久郡御代田町馬瀬口 1794 番地 6

電話 : 0267-32-3111      FAX : 0267-32-3929

---